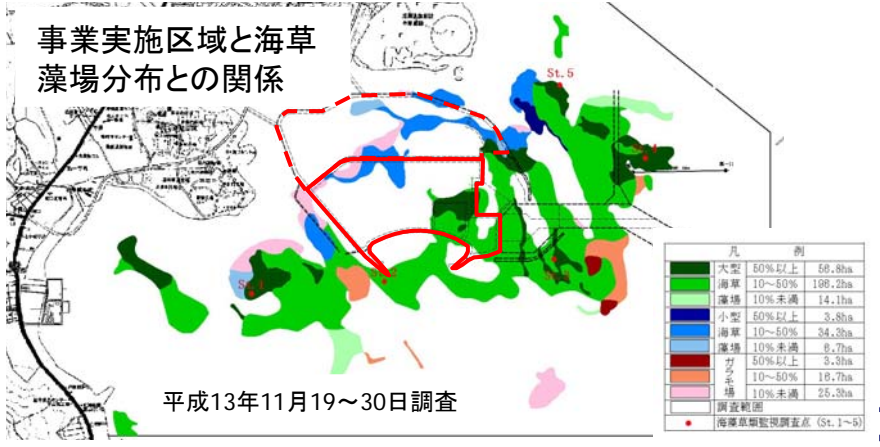


環境へはどのように配慮しているのか(その1)?

埋立地の位置形状については、開発規模を必要最小限に抑えるとともに、既存の海岸線から約200m沖合に出した人工島形式とし、干潟や沖合の海草藻場、サンゴ等の自然環境への影響を極力抑えるように計画しました。

- 泡瀬地区には、沿岸部にトカゲハゼや水鳥の採餌場となる干潟が存在するとともに、沖合には熱帯性海草藻場や比較的良好なサンゴ群集が存在します。これら自然環境に与える影響をなるべく回避・低減するため、**開発規模を必要最小限に抑えるとともに、既存の海岸線から約200m沖合に出した人工島形式とし、水質や底質に関わる適正な海水流動を勘案して埋立地の位置形状を決定しています。**



環境へはどのように配慮しているのか(その2)?



一部消失がどうしても避けられない生物の生息・生育環境については、埋立区域外の同様な環境をしっかりと保全するとともに、代表的な希少生物であるクビレミドロや熱帯性大型海草については、消失に伴う代償措置を講じます。

- ✦ 埋立地の位置形状を工夫しても、一部消失がどうしても免れない生物の生息・生育環境があります。このため、埋立区域外で残される干潟域や沖合の海草藻場など同様な生息・生育環境について、これを徹底して保全していくこととしています。
- ✦ また、代表的な希少生物であるクビレミドロや地域の生態系を特徴づける熱帯性大型海草については、消失に伴う代償措置を講じることとしました。すなわち、クビレミドロについては、一旦、屋慶名地区等に移植し、新たに造成される人工干潟に再移植することにより保全を図ること、熱帯性大型海草については、消失する被度50%以上の密生・濃性域はできる限り疎生域に移植し、海草藻場全体としての生態系の保全に努めることなどです。これらについては、「環境保全・創造検討委員会」で、有識者の意見を聴きながら検討を進めています。

クビレミドロ



環境へはどのように配慮しているのか(その3)?



人工島においては、自然海浜に類似した砂浜(ビーチ)や干潟、野鳥園、魚類や底生生物、海藻類などが生息・生育しやすい自然型護岸など、生物に優しい環境を新たに創造していきます。

- 事業実施に際しては、より積極的に良好な環境の創出に努めたいと考えており、人工島においては、次に示すような生物に優しい環境を新たに創造していきます。これらについても、「環境保全・創造検討委員会」で、有識者の意見を聴きながら検討を進めています。

オカヤドカリ類などが生息する自然海浜に近い砂浜

県運動公園前の砂浜



トカゲハゼやクビレミドロが生息・生育する干潟

新港地区人工干潟



野鳥の採餌場・休息場となるとともに野鳥観察等も可能な野鳥園

大阪南港野鳥園



新港地区の自然型護岸

魚類や底生生物、海藻類などが生息・生育しやすい自然型護岸

環境へはどのように配慮しているのか(その4)?



工事の実施に当たっては、様々なモニタリング調査を実施し、常に環境に与える影響の把握に努めています。特に工事中の濁りの拡散を防止するため、汚濁防止膜を二重に展張するとともに、護岸材として用いる石材は洗浄して投入しています。また、トカゲハゼの繁殖期である4~7月までの間は海上工事を中断してその生息環境に配慮しています。

- ✦ 工事の実施に当たっては、万全の環境監視体制を整え、常に環境に与える影響の把握に努めています。また、監視計画の検討、監視結果の評価については、「環境監視委員会」において有識者の意見を聴きながら進めています。
- ✦ 工事中の濁りの影響を低減するため、汚濁防止膜を二重に展張するほか、投入する石材については十分洗浄しています。また、浚渫後海底に堆積した土砂は出来る限り除去しています。さらに、低騒音・低振動型の施工機械を使用して、工事現場周辺への騒音や振動の影響を低減するよう努めています。



汚濁防止膜(二重展張)



石材の洗浄の様子